

学会からのメッセージ

「私の職業病 ～ポイ捨てを考える～」

私は毎朝のジョギングを日課としています。水田が広がる田園風景を五感で感じながらのジョギングです。でも困っていることが一つあります。走っている道端に散乱ごみをよく見かけることです。

多いのは、飲料容器、おにぎりやパンを包んでいた袋など。コンビニ近くの道路端に多く、購入後に歩きながら飲食し、そのままポイ捨てされているようです。放置されると、いずれは河川を通じて海洋プラスチック問題につながります。

ときどきは、飲料容器の中にタバコの吸い殻が押し込んであります。タバコの種類から、比較的若いひとによるものではないかと想像します。

外国人は、日本は大変清潔で美しい国であると称賛します。カタールで開催されたワールドカップでも、試合終了後に応援スタンドの散乱ごみを片付ける日本人サポーターの様子は、世界

から驚かれました。サポーターによれば「Atarimae」とのこと。日本に定着した清掃の文化を感じます。そして、私たちの周りの空間は共有財産であり、共同してきれいな状態に保つという意識が、ある程度根づいているように思います。また、日本人の社会規範意識や同調性の強さも関係しているかもしれません。

逆に考えれば、ポイ捨て行為をしてしまう人は、共同意識に乏しく、社会に対する反感や孤立感をもち、社会ルールの順守をあきらめているようにも思います。環境教育を通して道徳的倫理観をいくら説いても、このような根深いところに原因があれば、根本的に解決できない部分も残ってしまうのかもしれませんが。どのように解決していけばよいのでしょうか。

リフレッシュのためのジョギングなのですが、このようにあれこれと考えてしまう自身の「職業病」を恨みつつも、研究を通してよりよい社会にできればと思う今日この頃です。

(一社) 廃棄物資源循環学会 会長 おおさこ まさひろ 大迫 政浩